

Fan zones ファンゾーン

コミュニティ・ファンゾーン／スポーツシティ／ファミリー・フェスティバル

どんなものか？

- 公園・スタジアム・市の広場など、2日間から2週間程度の期間に渡って自治体等から許可を得て使う場所。
- 使用する場所をテープで囲むなどして境界を作り、アルコール類禁止エリア・禁煙エリアであることを表示する。それによって、人が集りゲームを観戦する地域内の他のファンゾーンにはない「家族連れに親切な場」を提供することが出来る。
- サッカーの選手権大会などのスポーツイベント開催中は、試合中継が映写される大きなスクリーンがその場の中心となる。（夕方から夜の時間帯がメインになることが多い。）スクリーンは、大型テレビをテントの中に設置、白いシートにデジタルプロジェクター映写（衛星アンテナ使用）、大型スクリーン、などを用いる。
- 会場を各アクティビティ毎にセクション分けする。キッズゲーム、リレー、チームゲーム（サッカー、バスケットボール、フロアボールなど）、家族で参加できるアクティビティ、レクリエーションエリア（バウンシーキャッスル、トランポリンなど）、機能的なエリア（飲料水、救護、無料の菓子・軽食類など）
- 地域の人たちの繋がりをつくれるよう、開会／閉会／決勝戦の日に、会場全体にU字型のセッティングを使ったスポーツフェスティバルを開催する。

どのように運営するか？

- 可能であれば、ファンゾーンの開催期間中、複数のプログラムを並行して実行できるように地域の教会同士協力して運営する。あるいは、各教会が数日交代で運営する。（例・12日間の開催の場合、4教会で3日ずつ。）
- 開催準備段階で地域の自治体にも関わってもらうようにする。そうすることで教会と自治体間の関係も築くことができる。
- 日中は教会員のボランティアによって幼児～児童／10代の子供たち／家族連れ／青年向けのアクティビティを運営。夕方以降はサッカー選手権等であればスクリーンで試合を観戦する。

- ワールドカップ開催に合わせて、数週間に渡ってファンゾーンを運営することも可。
- イベント期間中に青少年とその家族にどのような形で福音伝道していくか、教会として前もって検討・計画する。後日のフォローアップについては、Disciple Making Movement、使徒を生み出す活動を通して行う。
- 多くのファンゾーンはフェスティバルを皮切りに始まる。フェスティバルによって集まった人たちのコミュニティを意図的に作り、また、地域の人々がわたしたちと出会い、信頼関係を築くきっかけを提供してくれる。また、ファンゾーン開催中の数日から数週間にかけて行われる全てのプログラムの予定を来場者に知ってもらう好機でもある。
- ファンゾーン開催のポイントは、リラックスした雰囲気の中で、人々が立ち寄り、ぶらぶらと見て回れること、そして違ったアクティビティに参加してみるということ。
- キーポイントは、地域の人たちにとって参加無料のイベントであるということ。

どんなアクティビティが適しているか？

同時進行で複数のチームが違ったスポーツやアクティビティを進行できるようにする。例えばサッカートーナメント、卓球、バスケットボール、卓上でするゲーム、ダーツ、カラオケ、ダンスレッスン等、チームメンバーが来てくれた人たちと一緒にそれらのアクティビティをしながら共に座り、繋がりを築いていくことが出来るもの。ステージを作って、地域で活動するミュージシャンのコンサートやダンスグループやサークルの実演、各種のショー（火を使ったショー、曲芸、テコンドー実演など）などをする。

実務的な考察

- 会場近くの民家または地域の自治体が電気を供給してくれるかもしれないが、そうでない場合は発電機調達の手配をする。
- 夕方以降もイベントを続ける場合、照明をどう設置するか。
- イベントの主催者が誰なのか、目立つバナーやポスターを作る。会場を風船やカラフルなりボンなどで装飾する。
- 地域全体に広告を出す。招待状（として使えるカードなど）を作って教会員に配布すると、近所の人たちや友達をファンゾーンに招待しやすい。
- フェスティバル運営のための研修が有効的。どのように人間関係を築くか、信仰を分かち合う方法などを学ぶ。

- オリンピック、サッカーワールドカップ等のスポーツイベントの開催に合わせてファンゾーンを開催して成功する例が多いが、必ずしもスポーツイベントを中心とする必要はない。
- 学校の休暇の始まりや子供の日、その他の祝日など、何か祝うことを機会に開催できる。
- ロシアでは冬季に3~4週間ファンゾーンが運営される。ここで紹介したものと似たアクティビティが使われるが、冬季ならではのアイスホッケー、そり滑りや雪上でのポニー乗馬などが含まれる。
- 事前の研修; 人にどう挨拶・話しかけるか、より深く知るためにどうしたらいいか、どう信仰を分かち合うか学ぶ。
- 開催は週末が望ましい。週末は働いていない人が多く、家族揃って来てもらえる。平日の、例えば、午後4時から0時まで、という時間帯で開催することも可能。

実例

ウクライナでは、2012年のサッカーヨーロッパ杯の間、ファンゾーンが3週間に渡り、24時間体勢で運営された。そのため、ほぼいつでも人々が立ち寄り、ボランティアチームのメンバーと一緒に時間を過ごすことができた。スポーツ用具が用意されていたため、一日中いつでも使ってもらうことができた。(人手が多かったのは午後遅い時間から夕方の仕事帰り・学校帰りの時間帯。)

最初の3連夜に渡ってフェスティバルが開催され、そこで意図的にコミュニティを築いた。フェスティバルが一定時刻に終わるようにして、その後会場にいた人々皆が大スクリーンで試合観戦が出来るようにした。(スポーツイベントがない場合、家族向けの映画を上映し、温かいお茶などの飲み物を提供しても良い。)

3連夜のフェスティバルの後、4連夜、午後4時から7時までのキッズ・ゲームを開催。来場者はゲームに参加したり、自分の子供がゲームに参加するのを見学。続いて、4連夜に渡ってティーン・ゲームを開催。このファンゾーン期間中、日曜日にはファミリー・ゲームを開催した。サッカートーナメントやバスケットボールトーナメントを開催し、地域のチームが参加し対戦した。

工作など静かなアクティビティの日も数日設けた。ポストカード作成、ボードゲ

ームを習うきっかけを作ったり、花壇に花を植える、など。

最後の3夜はヨーロッパ杯の全盛、決勝戦と閉会式に向けて、コミュニティフェスティバルを開催。

地域の各教会がその後予定しているプログラムに来てもらえるよう呼びかけた。

フォローアップ

ファンゾーン開催中はチームメンバーは常に「平和の人」を探して目を配り、そこから霊的な会話に対してオープンな人を見つける。

それからのチャレンジは、その人たちをどうフォローアップして行くか、である。

ファンゾーンの後に、続いて来てもらえるステップとなるイベントなどを企画しておくこと。可能であればチラシなどを用意して、場所・日時・連絡先が分かりやすいようにしておく。

教会によって既存するクラブ等がある場合、そこに来てもらえるよう案内する。特にスポーツ関連の活動、各種トレーニング、ダンス、フィットネス、ボディビルディング、自転車旅行、ハイキング、登山、ラフティング、家族集会、キャンプ、メッシー・チャーチ、青少年の活動等。

可能であればファンゾーンの後にコミュニティが共に楽しめる「賞品」を用意する。トーナメント優勝チームがプロのサッカー競技場で競技をする権利、チーム全員をレストランに招待、または映画館で映画鑑賞、など。

ファンゾーンの影響力

多くの教会にとって、ファンゾーンを運営することは目から鱗の経験となっている。地域のコミュニティにおいて、その人々に出会い、人々自身と、何が必要とされているかを知るための効果的な方法である。

自治体関係者との繋がりを作り、信頼を得、正当な立場に立つ者として見てもらえるようになる。

多くのファンゾーンからフォローアップの対象となる人たちが見いだされた。ある教会はファンゾーンを通して知り合った400人以上の人たちをフォローアップした。

ファンゾーンで出会った人たちがその後の次のステップ、クラブなどの活動や教

会へ来てくれた、というストーリーがいくつも生まれている。ファンゾーンは、教会に集まる人々に、地域へ出て人々と交わり、人々を知る、という思いを与えてくれる。

ウクライナのヨーロッパ杯・ファンゾーンの統計

2012 6月8日から7月1日のサッカーヨーロッパ杯期間中、200以上のコミュニティファンゾーンが開催され、毎日100,000人以上の人々に影響を与えた。各ファンゾーンは4~6の協力教会で運営され（15~25人のボランティア）、コミュニティフェスティバル、パブリックビューイング、キッズゲーム、ファミリーゲーム、サッカーのキャンプ、指導、コミュニティ杯トーナメント等の各種アクティビティを企画・運営した。各ファンゾーンで多くのアクティビティに800~1,000人の来場者があった。